



Ⅱ 保健衛生編

- 1 精神保健
- 2 難病対策
- 3 感染症予防
- 4 夜間急病センター
- 5 実習および研修の受け入れ



1 精神保健

多様化した現代社会では、ストレスや高齢化などによって精神的な健康を損なう場面も多いことから、精神保健に対する正しい知識の普及をはじめ、相談や訪問等の個別支援、社会復帰への支援のほか、自殺対策などの事業および関係団体との連携を行っている。

また、保健・医療・福祉等に関する地域社会のニーズに応じ、精神保健福祉サービスの提供に努めている。

(1) 精神保健福祉相談事業

精神保健に関するあらゆる相談に対し、問題解決のための援助を行うことで、患者および家族が疾病を理解し、円滑な社会生活を営むことができることを目的に実施している。

① 心の健康相談事業

心の健康について不安のある本人やその家族に対し、月2回精神科医がこれからの対応や関わりなどについて個別に助言している。

表1 心の健康相談

区分	実施回数	相談件数
平成27年度	7	7
平成28年度	6	6
平成29年度	3	3

② 精神保健福祉相談

保健師や精神保健福祉士が、こころの健康、こころの病気に関する相談等および精神障がい者の福祉に関する相談等を行っている。

表2 精神保健相談状況

区分		総数	老人精神	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	その他
来所相談	平成27年度	712	38	368	20	2	—	3	42	239
	平成28年度	1,044	9	464	56	1	2	—	62	450
	平成29年度	846	5	456	13	2	—	1	39	330
区分		総数	老人精神	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	その他
電話相談	平成27年度	2,193	284	365	38	—	5	8	539	954
	平成28年度	2,758	26	396	78	2	3	—	503	1750
	平成29年度 (内メール相談)	3,004 (37)	16	601 (25)	52 (2)	3	1	—	125 (4)	2206 (6)

※H29年度はメール相談を含んでいる。

③ 家庭訪問

保健師や精神保健福祉士が、こころの病気等を抱える患者および家族のプライバシーに配慮しつつ、家庭訪問による相談・指導を行っている。

表3 家庭訪問状況

区 分	総 数		老人精神		社会復帰		アルコール		薬 物	
	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数
平成27年度	324	482	67	76	129	187	2	5	—	—
平成28年度	257	358	5	17	127	175	4	5	2	2
平成29年度	264	390	7	15	147	189	4	7	1	1
区 分	ギャンブル		思春期		心の健康づくり		その他			
	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数		
平成27年度	—	—	1	3	8	21	117	190		
平成28年度	—	—	1	1	13	26	105	132		
平成29年度	—	—	—	—	2	13	103	165		

(2) 家族支援

① 家族会支援

精神障がい者家族会の支援を通じて、精神障がい者が地域の中で自主的に生活できるよう支援する。

② 精神保健家族セミナー

精神障がい者を抱える家族に対して、病気と障がいに対する正しい知識・情報を提供し、家族機能の回復と強化を図っている。また、グループワークを通じて、お互いの悩みを知るとともに、家族同士が支え合い、交流しあえる場となっている。

表4 精神保健家族セミナー実施状況

区 分	開催回数	参加者数	
		実数	延数
平成27年度	4	—	52
平成28年度	4	—	50
平成29年度	4	—	75

(3) 普及啓発事業

地域住民組織等からの依頼により講師を派遣し、精神保健に関する講座等を開催している。

表5 健康教育実施状況（平成29年度）

年 度	回 数	参加人数
平成27年度	13	709
平成28年度	14	509
平成29年度	11	375

(4) 自殺予防対策事業

自殺予防に関する情報の提供や知識の普及啓発の対策を実施し、うつ病と自殺予防に対する理解を深めるとともに、相談支援の充実に努めることにより、自殺者の減少を図っている。

(平成29年度)

① 関係機関との連携・情報交換

- ・函館市自殺対策連絡会議 年1回開催（関係機関21機関参加）
- ・函館市自殺対策実務者会議 年2回開催（1回目 関係機関12機関参加）
（2回目 関係機関12機関参加）

② 普及啓発事業

- ・自殺予防啓発カード、クリアファイルの作成・配布
- ・自殺予防パネル展の実施 自殺予防週間の期間（9月10日～9月16日）に実施。
- ・自殺予防講演会 平成29年10月28日 47名参加

③ 相談支援事業

- ・「函館いのちのホットライン」 開設日103日 相談件数 延べ126件
カウンセリングや傾聴などの知識と経験を有する相談員による電話相談を週2回夜間（17:30～20:30）に実施している。
相談員：函館家庭生活カウンセラークラブ、北海道メンタル評議会
- ・随時相談（自殺関連） 来所6件 電話105件
保健師、精神保健福祉士による相談業務を実施している。
- ・暮らしとこころの相談会（函館弁護士会と共催） 面接2件 電話0件

④ 人材育成事業

自殺を企図する方の身近な方々に、自殺の様々なサインをつかみ・受け止め、専門機関へつなぐ知識・技術を習得するためのゲートキーパー研修会や、自死遺族の会や函館いのちのホットライン従事者のスキルアップの研修会を開催している。

- ・函館いのちのホットライン従事者研修 年1回開催
参加者 ホットライン従事者 21名参加
- ・ゲートキーパー研修 H29年度実施なし

⑤ 自殺未遂者対策（北海道渡島保健所と共催）

- ・自殺未遂者ケア研修会
平成29年8月31日実施 62名参加
- ・自殺未遂者向けリーフレットの作成、配布

⑥ 若年層対策

- ・若年層向け相談・居場所づくり事業（平成27年8月から実施）
「フリースペース『ヨリドコロ』」
毎週月・金 13:00～15:00
平成29年度 95回実施 実30名延べ177名利用

(5) 依存症対策事業（北海道渡島保健所と共催）

依存症者やその家族に対し、身近な地域で支援を受けながら、依存症からの回復を図ることができるよう依存症に関する普及啓発を行い、地域における依存症支援の理解を促進するとともに地域の支援体制を構築する。

(平成29年度)

① 普及啓発事業

- ・ 依存症支援者学習会 平成29年8月2日 46名参加
- ・ 依存症を考えるつどい 平成30年1月20日 21名参加

② その他

- ・ 依存症を考えるつどい
毎月第3土曜日 13:30～15:30
平成29年度 12回実施 延べ290名参加（従事者含む）
- ・ 依存症を考えるつどいの連絡会議 平成30年1月20日 21名参加

2 難病対策

(1) 特定医療費（指定難病）支給制度、特定疾患・先天性血液凝固因子障害等治療研究事業

平成27年1月から施行された「難病の患者に対する医療等に関する法律」に基づき、国または北海道の指定する難病に罹患し、その病状の程度が認定基準に該当するとき、または高額な医療の継続が必要と認められる場合に、患者の負担軽減を図るため医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道（保健所は申請手続きの窓口）。

表1-1 特定医療費（指定難病）受給者証交付状況（平成29年度末現在）

疾 病 名	総 数			内 訳					
				新 規			継 続		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
球 脊 髄 性 筋 萎 縮 症	3	3	—	1	1	—	2	2	—
筋 萎 縮 性 側 索 硬 化 症	17	9	8	11	6	5	6	3	3
進 行 性 核 上 性 麻 痺	13	8	5	3	2	1	10	6	4
パ ー キ ン ソ ン 病	269	93	176	28	13	15	241	80	161
大 脳 皮 質 基 底 核 変 性 症	10	2	8	1	—	1	9	2	7
ハ ン チ ン ト ン 病	3	1	2	—	—	—	3	1	2
神 経 有 棘 赤 血 球 症	1	1	—	—	—	—	1	1	—
シ ャ ル コ ー ・ マ リ ー ・ ト ウ ー ス 病	1	—	1	1	—	1	—	—	—
重 症 筋 無 力 症	50	17	33	3	2	1	47	15	32
多 発 性 硬 化 症 / 視 神 経 脊 髄 炎	34	7	27	4	—	4	30	7	23
慢 性 炎 症 性 脱 髓 性 多 発 性 神 経 炎 / 多 発 性 運 動 ニ ュ ー ロ パ チ ー	4	1	3	1	1	—	3	—	3
ク ロ ウ ・ 深 瀬 症 候 群	1	1	—	—	—	—	1	1	—
多 系 統 萎 縮 症	23	9	14	7	2	5	16	7	9
脊 髄 小 脳 変 性 症 (多 系 統 萎 縮 症 を 除 く)	68	33	35	6	2	4	62	31	31
フ ラ イ ソ ン ゾ ー ム 病	1	1	—	1	1	—	—	—	—
ミ ト コ ン ド リ ア 病	3	2	1	2	1	1	1	1	—
も や も や 病	26	12	14	1	—	1	25	12	13
プ リ オ ン 病	2	—	2	1	—	1	1	—	1
亜 急 性 硬 化 性 全 脳 炎	1	—	1	—	—	—	1	—	1
進 行 性 多 巣 性 白 質 脳 症	1	1	—	1	1	—	—	—	—
全 身 性 ア ミ ロ イ ド ー シ ス	1	1	—	—	—	—	1	1	—
神 経 線 維 腫 症	5	1	4	—	—	—	5	1	4
天 疱 瘡	14	5	9	2	1	1	12	4	8
膿 疱 性 乾 癬 (汎 発 型)	4	—	4	—	—	—	4	—	4
中 毒 性 表 皮 壊 死 症	1	—	1	1	—	1	—	—	—
高 安 動 脈 炎	12	2	10	—	—	—	12	2	10
結 節 性 多 発 動 脈 炎	4	2	2	1	1	—	3	1	2
顕 微 鏡 的 多 発 血 管 炎	11	7	4	4	2	2	7	5	2
多 発 血 管 炎 性 肉 芽 腫 症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
好 酸 球 性 多 発 血 管 炎 性 肉 芽 腫 症	3	1	2	1	1	—	2	—	2
悪 性 関 節 リ ウ マ チ 病	4	2	2	—	—	—	4	2	2
バ ー ジ ャ ー 病	17	16	1	1	1	—	16	15	1
全 身 性 エ リ テ マ ト ー デ ス	145	18	127	12	1	11	133	17	116
皮 膚 筋 炎 / 多 発 性 筋 炎	38	9	29	4	—	4	34	9	25
全 身 性 強 皮 症	52	3	49	—	—	—	52	3	49
混 合 性 結 合 組 織 病	19	4	15	2	1	1	17	3	14
シ ェ ー グ レ ン 症 候 群	260	10	250	10	1	9	250	9	241
成 人 ス チ ル 病	6	2	4	2	1	1	4	1	3
再 発 性 多 発 軟 骨 炎	1	1	—	1	1	—	—	—	—
ベ ー チ ェ ッ ト 病	41	16	25	2	1	1	39	15	24
特 発 性 拡 張 型 心 筋 症	50	38	12	11	6	5	39	32	7
肥 大 型 心 筋 症	19	12	7	1	1	—	18	11	7
再 生 不 良 性 貧 血	11	3	8	1	1	—	10	2	8

疾 病 名	総 数			内 訳					
				新 規			継 続		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
自己免疫性溶血性貧血症	2	1	1	1	1	—	1	—	1
発作性夜間ヘモグロビン尿症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
特発性血小板減少性紫斑病	47	13	34	4	—	4	43	13	30
原発性免疫不全症候群	4	3	1	—	—	—	4	3	1
IgA腎症	6	4	2	3	2	1	3	2	1
多発性嚢胞腎	21	7	14	6	1	5	15	6	9
黄色靱帯骨化症	6	4	2	3	2	1	3	2	1
後縦靱帯骨化症	94	60	34	11	7	4	83	53	30
広範脊柱管狭窄症	1	1	—	—	—	—	1	1	—
特発性大腿骨壊死症	46	24	22	8	3	5	38	21	17
下垂体性ADH分泌異常症	4	1	3	—	—	—	4	1	3
下垂体性TSH分泌亢進症	1	—	1	1	—	1	—	—	—
下垂体性PRL分泌亢進症	7	3	4	1	—	1	6	3	3
下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	5	—	5	1	—	1	4	—	4
下垂体前葉機能低下症	30	16	14	3	2	1	27	14	13
先天性副腎皮質酵素欠損症	2	—	2	—	—	—	2	—	2
アジソン病	2	—	2	—	—	—	2	—	2
サルコイドーシス	39	9	30	6	1	5	33	8	25
特発性間質性肺炎	15	11	4	4	3	1	11	8	3
肺動脈性肺高血圧症	5	—	5	—	—	—	5	—	5
慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6	2	4	—	—	—	6	2	4
リンパ管筋腫症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
網膜色素変性症	31	15	16	1	—	1	30	15	15
原発性胆汁性胆管炎	49	4	45	4	—	4	45	4	41
原発性硬化性胆管炎	1	—	1	1	—	1	—	—	—
自己免疫性肝炎	35	5	30	8	2	6	27	3	24
クローン病	101	67	34	10	7	3	91	60	31
潰瘍性大腸炎	247	125	122	34	16	18	213	109	104
好酸球性消化管疾患	4	—	4	4	—	4	—	—	—
慢性特発性偽性腸閉塞症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
全身性若年性特発性関節炎	2	—	2	1	—	1	1	—	1
筋ジストロフィー	3	2	1	1	1	—	2	1	1
脊髄空洞症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
脳表ヘモジデリン沈着症	1	1	—	1	1	—	—	—	—
前頭側頭葉変性症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	1	1	—	1	1	—	—	—	—
スタージ・ウェーバー症候群	1	1	—	1	1	—	—	—	—
類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	1	—	1	1	—	1	—	—	—
マルファン症候群	1	—	1	—	—	—	1	—	1
ファロー四徴症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
両大血管右室起始症	1	—	1	1	—	1	—	—	—
エプスタイン病	1	—	1	—	—	—	1	—	1
急速進行性糸球体腎炎	4	1	3	—	—	—	4	1	3
一次性ネフローゼ症候群	22	11	11	6	2	4	16	9	7
一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	2	—	1	1	—	1	1	—
間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	—	1	1	—	1	—	—	—
オスラー病	3	3	—	2	2	—	1	1	—
副甲状腺機能低下症	1	—	1	—	—	—	1	—	1
家族性地中海熱	1	1	—	—	—	—	1	1	—
強直性脊椎炎	2	1	1	—	—	—	2	1	1
クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1	1	—	—	—	—	1	1	—
後天性赤芽球癆	1	—	1	—	—	—	1	—	1
IgG4関連疾患	4	2	2	4	2	2	—	—	—
計	2,121	756	1,365	263	110	153	1,858	646	1,212

表 1-2 特定疾患治療研究事業給付状況（平成 29 年度末現在）

疾 病 名		総 数			内 訳					
					新 規			継 続		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女
国指定	ス モ ン	7	2	5	—	—	—	7	2	5
道 指 定	シェーグレン症候群	67	1	66	—	—	—	67	1	66
	自己免疫性溶血性貧血	6	—	6	—	—	—	6	—	6
	自己免疫性肝炎	8	2	6	—	—	—	8	2	6
	突発性難聴	17	5	12	—	—	—	17	5	12
	ステロイドホルモン産生異常症	4	2	2	1	—	1	3	2	1
	難治性肝炎 (劇症肝炎及びウイルス性B・C型肝炎を除く)	4	2	2	—	—	—	4	2	2
	特発性間質性肺炎(特例) 肥大型心筋症(特例)	8	6	2	5	3	2	3	3	—
2	2	—	—	—	—	—	2	2	—	
計		123	22	101	6	3	3	117	19	98

表 2 先天性血液凝固因子障害等治療研究事業給付状況（平成 29 年度末現在）

疾 病 名		総 数			内 訳					
					新 規			継 続		
		計	男	女	計	男	女	計	男	女
先天性血液凝固因子障害		8	8	—	—	—	—	8	8	—

(2) 在宅難病患者等酸素濃縮器使用助成事業

在宅酸素療法および人工呼吸療法を必要とする呼吸器機能障がい者に対し、酸素濃縮器および人工呼吸器の使用に係る電気料金の一部を助成する。実施主体は北海道（保健所は申請手続きの窓口）。

表 3 在宅難病患者等酸素濃縮器使用助成認定状況（平成 29 年末現在）

総 数			内 訳					
			新 規			継 続		
計	男	女	計	男	女	計	男	女
98	61	37	16	12	4	82	49	33

(3) 難病患者在宅療養支援計画策定・評価事業

要支援難病患者（難病を主な要因とする身体の機能障害や長期安静の必要から日常生活に著しい支障がある在宅の難病患者で、保健、医療および福祉の分野にわたる総合的なサービスの提供を要する患者をいう。）に対し、個々の患者の実態に応じて、きめ細かな支援を行うため、対象患者別の在宅療養支援計画を作成し、適宜評価を行いその改善を図ることを目的として実施している。

また、難病患者の在宅療養を効果的に支援するため、保健、医療、福祉関係者などによる学習会も開催している。

（難病患者在宅療養支援学習会 平成 29 年度 1 回開催）

(4) 難病医療相談事業

難病患者等の医療上の不安を緩和するため、難病に関する専門の医師、保健師、社会福祉士等による医療相談班を編成し、患者等の利用のし易さやプライバシーの保護に配慮し、難病医療相談会を開催している。

表 4 難病医療相談会開催状況

区 分	テ ー マ	参加者
平成 2 7 年度	全身性エリテマトーデスとは	42
平成 2 8 年度	第 1 回「気になる症状は難病のサイン?～歩行障害～」	27
	第 2 回「神経難病患者支援のための意思伝達支援研修 ～コミュニケーション支援と多職種連携・地域連携～」	26
平成 2 9 年度	第 1 回「北海道難病連函館支部のあゆみ～難病患者に寄り添って～」	59
	第 2 回「パーキンソン病ー病気のことをよく知って、上手につき合しましょう」	142

(5) 難病患者サポート教室

療養に必要な知識や交流を深める場を提供することにより、難病患者やその家族の療養上の孤立感を緩和し、QOLの向上を図ることを目的に実施している。

表 5 難病患者サポート教室開催状況

区 分	開催回数	延参加人員 (家族含)
平成 2 7 年度	3	37
平成 2 8 年度	3	44
平成 2 9 年度	3	47

(6) 難病患者訪問相談事業

難病患者やその家族が抱える日常生活上および療養上の不安を緩和するため、患者のプライバシーに配慮しつつ、個別の相談、指導、助言等を行っている。

表 6 難病患者訪問相談状況

区 分	実 人 員	延 人 員
平成 2 7 年度	65	147
平成 2 8 年度	48	99
平成 2 9 年度	56	142

(7) 難病患者訪問指導（診療）事業

要支援難病患者やその家族が抱える日常生活上および療養上の不安を緩和するため、専門医、保健師、理学療法士等で構成する訪問指導（診療）班を派遣し、在宅療養に必要な医学的指導等を行っている。

表7 難病患者訪問指導（診療）状況

区 分	実 人 員	延 人 員
平成27年度	6	7
平成28年度	2	2
平成29年度	2	2

(8) ウイルス性肝炎進行防止対策医療給付状況（国事業：肝炎治療特別促進事業）

B型ウイルス性肝炎およびC型ウイルス性肝炎は、インターフェロンや核酸アナログ製剤による治療が奏効すれば、その後の肝硬変、肝がんといった重篤な病態を防ぐことが可能な疾病であることから、これらの治療に係る医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道（保健所は申請手続きの窓口）。

表8 ウイルス性肝炎進行防止対策医療給付状況（平成29年度末現在）

総 数			内 訳					
			新 規			継 続		
計	男	女	計	男	女	計	男	女
326	188	138	54	28	26	272	160	112

(9) ウイルス性肝炎進行防止対策・橋本病重症患者対策医療給付事業（道事業）

ウイルス性慢性肝炎の肝硬変への進行や肝がんの発生を防止し、患者の効果的な治療の確保を図るとともに、重症である橋本病患者の治療を支援するため医療費等の自己負担分の全額または一部を公費負担している。実施主体は北海道（保健所は申請手続きの窓口）。

表9 ウイルス性肝炎進行防止対策・橋本病重症患者対策医療給付状況（平成29年度末現在）

疾 病 名	総 数			内 訳					
				新 規			継 続		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女
ウ イ ル ス 性 肝 炎	148	77	71	37	23	14	111	54	57
橋 本 病	1	—	1	1	—	1	—	—	—

3 感染症予防

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき、医師・獣医師、指定届出機関からの発生届出を受け、感染症のまん延防止のために迅速かつ的確に対応するほか、感染症発生動向を把握し、公表することにより感染症の発生予防に努めている。

また、予防接種法に基づく定期予防接種として、高齢者のインフルエンザおよび肺炎球菌感染症の予防接種を実施している。

(1) 感染症発生届出数

表 1 全数届出感染症患者数（各年 1 2 月末現在）

区 分	一 類	二 類	三類		四類						五類													
			細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌	E型肝炎	エキノコックス症	回帰熱	ダニ媒介脳炎	デング熱	ライム病	レジオネラ症	アメーバ赤痢	(E型・A型肝炎除く)	腸内細菌感染	カルバペネム耐性	急性脳炎	・クロイツフェルト	症候群	後天性免疫不全	ジアルジア症	ンザ菌感染	侵襲性インフルエンザ	侵襲性肺炎球菌	水痘
平成 2 7 年	—	—	1	4	4	3	—	—	1	1	6	1	—	2	—	1	1	1	—	4	1	3	2	1
平成 2 8 年	—	—	—	1	9	3	1	—	—	—	1	5	2	—	2	—	—	—	1	7	1	6	—	—
平成 2 9 年	—	—	—	3	1	—	—	1	—	—	3	2	2	3	4	2	3	—	—	2	2	2	—	—

※届出数には市外在住者を含む。 ※結核は別頁に掲載

表 2 定点届出感染症患者数（平成 2 9 年 1 2 月末現在）

定 点	症 名	届出数	定 点	症 名	届出数
内科・小児科	インフルエンザ	1,670	産婦人科 泌尿器科 基 幹	性器クラミジア感染症	95
小 児 科	R S ウイルス感染症	300		性器ヘルペスウイルス感染症	9
	咽 頭 結 膜 熱	165		尖形コンジローマ	8
	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	451		淋 菌 感 染 症	15
	感 染 性 胃 腸 炎	1,435		細 菌 性 髄 膜 炎	5
	水 痘	69		無 菌 性 髄 膜 炎	13
	手 足 口 病	452		マイコプラズマ肺炎	2
	伝 染 性 紅 斑	4		ク ラ ミ ジ ア 肺 炎	—
	突 発 性 発 疹	53		感 染 性 胃 腸 炎 (ロタウイルスに限る)	32
	百 日 咳	1		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	30
	へ ル パ ン ギ ー ナ	89	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	—	
流 行 性 耳 下 腺 炎	125	薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症	—		
眼 科	急性出血性結膜炎	—			
	流行性角結膜炎	178			

(注) 内科定点 4 ヵ所、小児科定点 7 ヵ所（平成 2 9 年 4 月から 6 ヵ所）、眼科定点 2 ヵ所、産婦人科・泌尿器科定点各 1 ヵ所、基幹定点 1 ヵ所

(2) HIV（エイズウイルス）抗体検査

HIV（エイズウイルス）感染者を早期に発見し、適切な治療に結びつけることにより、後天性免疫不全症候群（エイズ）の発症または重症化を予防することを目的として検査を実施している。

表3 HIV抗体検査受検状況

区 分	HIV抗体検査件数		
	総 数	男	女
平成27年度	117	78	39
平成28年度	145	82	63
平成29年度	155	102	53

(3) 肝炎ウイルス検診

B型肝炎、C型肝炎ウイルスの持続感染状態にあつて、自分自身が感染していることを自覚していない人を早期に発見し、適切な治療に結びつけることにより、重症化を予防することを目的として、検診を実施している。

従来の感染症法に基づく小学校3年生以上の全市民対象のウイルス性肝炎検査に加え、更に平成20年度から健康増進法の規定に基づき40歳を対象とした節目健診を実施し、平成23年度からは個別勧奨事業（40歳から60歳までの5歳刻みの者に個別に通知し、受診の勧奨を行う。）も実施している。

表4 肝炎ウイルス検診受診状況

区 分		HBs抗原検査 (B型肝炎)			HCV抗体検査 (C型肝炎)		
		総 数	男	女	総 数	男	女
平成27年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	231	108	123	224	106	118
	節目健診 (40才)	80	35	45	80	35	45
	個別勧奨 (40才～60才)	1,195	341	854	1,194	343	851
平成28年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	312	127	185	304	123	181
	節目健診 (40才)	49	24	25	49	24	25
	個別勧奨 (40才～60才)	1,984	789	1,195	1,983	789	1,194
平成29年度	ウイルス性肝炎検査 (小学3年生以上)	223	101	122	222	100	122
	節目健診 (40才)	56	19	37	56	19	37
	個別勧奨 (40才～60才)	2,043	819	1,224	2,041	818	1,223

(4) 風しん抗体検査

平成26年度から妊婦等に対する風しんの感染予防を図り、先天性風しん症候群の発生を未然に防ぐことを目的に、抗体検査を実施している。

表5 風しん抗体検査受検状況

区 分	風しん抗体検査件数		
	総 数	男	女
平成27年度	69	40	29
平成28年度	69	35	34
平成29年度	96	60	36

(5) エキノコックス症検診

キツネなどを媒介として感染するエキノコックス症の予防と患者の早期発見、早期治療のため住民に対する検診を実施している。

表6 検診受診状況および患者数

区 分	受診者数	受 診 結 果		確認患者
		陽 性	疑 陽 性	
平成27年度	57	—	1	—
平成28年度	135	—	—	—
平成29年度	114	—	—	—

(6) 結核対策

① 定期の健康診断

ア 学校・事業所・施設での定期健康診断

労働安全衛生法や学校保健安全法に基づき、各事業所や各学校での定期健康診断として実施している。

表7 学校・事業所・施設での定期健康診断（平成29年度）

区 分	間 接 撮 影	直 接 撮 影	かくだん 喀痰検査	患者発見数 (疑い含む)
事 業 所	3,009	14,111	55	—
学 校	2,887	1,191	—	—
施 設	899	1,459	—	—
計	6,795	16,761	55	—

イ 市が実施する定期結核健康診断

総合保健センターや町会館等で行っている特定健康診査時に、65歳以上を対象とした結核健康診断を実施している。

表 8 定期結核健康診断

区 分	実 施 回 数	受診者実人員	発見患者数
平成27年度	232	6,878	—
平成28年度	232	6,462	—
平成29年度	232	6,504	—

② 接触者健康診断

結核患者の同居家族や病院，事業所，学校などで結核患者と接触があり，結核にかかっていると疑うに足りる者を対象として接触者健診を実施している。

表 9 接触者健診受診状況（各年12月末現在）

区 分	患 者 家 族				そ の 他			
	受診者数	健 診 結 果			受診者数	健 診 結 果		
		異常なし	要 観 察	要 医 療		異常なし	要 観 察	要 医 療
平成27年	69	49	18	2[2]	122	78	44	—
平成28年	48	32	16	—	122	110	10	2[2]
平成29年	35	24	11	—	24	19	5	—

(注) []内は潜在性結核感染症患者数（再掲）

③ 結核患者の登録管理

表 10 年齢階級別結核登録患者数（各年12月末現在）

区 分	総 数	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳～
平成27年	73 [37]	—	—	—	—	1	3	3 [3]	6 [2]	12 [2]	48 [30]
平成28年	65 [22]	—	—	—	—	1 [1]	2 [1]	6 [3]	3	7 [5]	46 [12]
平成29年	60 [27]	—	—	—	—	1	2 [1]	4	4 [1]	8 [5]	41 [20]

(注) 潜在性結核感染症患者を除く。[]内は新規登録者

表 1 1 結核登録患者活動性分類別受療状況(平成 2 9 年 1 2 月末現在)

区 分	登 録 患者数	活 動 性 肺 結 核					活 動 性 肺 外 結 核	不 活 動 性	不 明	潜 在 性 結 核 感 染 症 (別 掲)
		登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性 ・ 初 回 治 療	登 録 時 喀 痰 塗 抹 陽 性 ・ 再 治 療	そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ 不 明	計				
入 院	2	2	—	—	—	2	—	—	—	—
通 院	17	5	—	6	2	13	4	—	—	3
医 療 な し	41	—	—	—	—	—	—	41	—	1
不 明	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	60	7	—	6	2	15	4	41	—	4

表 1 2 結核登録者数の推移(各年 1 2 月末現在)

区 分	本 年 中 登 録 者			年 間 登 録 除 外					年 末 現 在 登 録 者
	新 規	転 入	計	死 亡	観 察 不 要	転 出	そ の 他	計	
平 成 2 7 年	39 [2]	1 [1]	40 [3]	16 [1]	40 [9]	3 [2]	1	60 [12]	81 [8]
平 成 2 8 年	29 [7]	—	29 [7]	5	29 [4]	—	—	34 [4]	76 [11]
平 成 2 9 年	32 [5]	2	34 [5]	10 [1]	33 [10]	3 [1]	—	46 [12]	64 [4]

(注) [] は潜在性結核感染症登録者の再掲

④ 家庭訪問指導

平成 1 7 年度から函館市地域 DOTS (直接服薬確認療法) 事業を開始し、結核患者に対する抗結核薬の確実な服用を家庭訪問等により支援している。

平成 2 1 年度から、DOTS 事業に係る支援者を拡大し、訪問看護事業所に委託することにより、きめ細やかな服薬支援を行っている。

表 1 3 家庭訪問指導件数

区 分	実 数	(再掲) DOTS件数	延 数	(再掲) DOTS件数	(別掲)
					委託機関実施 DOTS件数
平 成 2 7 年 度	55	5	130	37	40
平 成 2 8 年 度	40	15	112	59	43
平 成 2 9 年 度	58	20	188	111	24

⑤ 精密検査

結核登録票に登録されている者で、結核の予防または医療上必要があると認めるときに精密検査を実施している。

表 1 4 精密検査状況(各年 1 2 月末現在)

区 分	精 密 検 査			
	受診者数	検 査 結 果		
		異常なし	要 観 察	要 医 療
平成 2 7 年	69	31	38	—
平成 2 8 年	70	29	41	—
平成 2 9 年	69	33	35	1

⑥ 医療

感染症法に基づく入院勧告および入院の期間の延長ならびに結核患者の医療費公費負担申請について、感染症の診査に関する協議会で診査し、適正な医療の普及促進に努めている。

表 1 5 結核医療費公費負担申請および承認状況(各年 1 2 月末現在)

区 分		平成 2 7 年	平成 2 8 年	平成 2 9 年
法第 3 7 条	申 請	60	22	25
	合 格	60	22	25
	承 認	60	22	25
法第 3 7 条の 2	申 請	54	59	50
	合 格	52	59	50
	承 認	52	59	50

(7) 予防接種

表 1 6 定期予防接種実施状況

区 分	名 称	接 種 者 数		
		平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度
B 類疾病	高齢者インフルエンザ	43, 184	44, 529	44, 052
	高齢者肺炎球菌感染症	6, 600	7, 067	7, 227

(8) 保健師活動

① 健康相談

健康上の問題を抱えている市民に対し、健康相談を行っている。

表 17 健康相談受付状況

区 分	感 染 症		難 病	
	来所相談	電話相談	来所相談	電話相談
平成 27 年度	58	438	87	119
平成 28 年度	35	614	34	176
平成 29 年度	36	623	58	232

② 健康教育

地域住民組織等からの依頼により講師を派遣し、健康に関する講座等を開催している。

表 18 健康教育実施状況

区 分	感 染 症		難 病	
	回 数	参加人数	回 数	参加人数
平成 27 年度	11	998	4	82
平成 28 年度	18	930	2	33
平成 29 年度	17	843	2	33

③ 家庭訪問

在宅寝たきり者や介護者の保健指導を関係機関と連携協力し、家庭訪問指導を行っている。

表 19 家庭訪問指導状況

区 分	感 染 症		結 核		特 定 疾 患	
	実 数	延 数	実 数	延 数	実 数	延 数
平成 27 年度	13	13	55	130	65	147
平成 28 年度	14	24	40	112	48	99
平成 29 年度	11	26	58	188	56	142

(注) 特定疾患は保健福祉部高齢福祉課理学療法士の訪問件数を含む。

4 夜間急病センター

夜間の急病患者の診療を行い、市民の健康保持を図ることを目的として、夜間急病診療事業を実施するために、昭和51年6月、旧保健所庁舎（五稜郭町16番1号）内に函館市夜間急病センターを設置、昭和55年10月に白鳥町13番32号に移転し、設置当初から函館市医師会により運営されていた（公設民営）。

平成20年12月1日に、函館市総合保健センター2階に移転するとともに、指定管理者制度を導入し、函館市医師会を指定管理者として管理運営されている。

表1 疾患別利用者および二次病院転送者状況

区 分	急病センター利用者の科目内訳				二次病院への転送者数
	内 科	小 児 科	外 科	計	
平成27年度	9,553	6,114	3,955	19,622	619
平成28年度	9,377	5,767	3,684	18,828	551
平成29年度	8,753	5,552	3,751	18,056	510
上気道炎	2,812	1,897	—	4,709	11
インフルエンザ	903	489	—	1,392	3
気管支炎	230	703	—	933	2
熱性けいれん	—	28	—	28	3
喘息様気管支炎	7	82	—	89	—
気管支喘息	107	232	—	339	5
肺炎	43	12	—	55	18
伝染性疾患(風疹・麻疹等)	19	278	—	297	4
消化不良症	136	219	—	355	1
急性胃腸炎	1,701	728	—	2,429	25
胃・十二指腸潰瘍	46	—	—	46	2
肝・胆・すい疾患	28	—	—	28	8
急性腹症	140	3	—	143	58
心疾患	190	—	—	190	41
高血圧症	343	—	—	343	8
低血圧症	6	—	—	6	1
脳血管障がい	42	—	—	42	29
尿路疾患	300	12	—	312	9
神経疾患	405	33	—	438	9
じんましん	403	358	—	761	2
虫垂炎	11	1	—	12	14
中毒	2	—	—	2	—
外傷	3	7	2,501	2,511	121
交通事故	—	—	189	189	—
熱傷	—	—	129	129	2
皮膚疾患	119	76	334	529	10
耳鼻科疾患	178	186	40	404	14
産婦人科疾患	5	1	1	7	—
歯痛	34	8	4	46	—
その他	540	199	553	1,292	110

表2 曜日別利用者状況(平成29年度)

区 分		平 日	土 曜 日	日 曜 日	祝 日	合 計
開 設 日 数		245日	49日	51日	20日	365日
利用者数	総 数	9,994人	3,188人	3,343人	1,531人	18,056人
	1日平均	40.8人	65.1人	65.5人	76.6人	49.5人

表3 受付時間帯別・年齢別・救急度別利用者状況(平成29年度)

区 分		利 用 者 数		構成比率 (%)
		総 数	1日平均	
受付時間帯別	19時30分～	5,378	14.7	29.8
	20時～	4,732	13.0	26.2
	21時～	3,771	10.3	20.9
	22時～	2,059	5.6	11.4
	23時～	1,636	4.6	9.0
	0時～	480	1.3	2.7
年 齢 別	1歳未満	659	1.8	3.6
	1～5歳	3,307	9.1	18.3
	6～14歳	2,608	7.1	14.4
	15～59歳	8,101	22.2	44.9
	60歳以上	3,381	9.3	18.8

5 実習および研修の受け入れ

(1) 実習指導

表1 学生実習状況(平成29年度)

区 分	学校名	実習人員
保 健 師	北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻	実) 2名 延) 6名
看 護 師	北海道大学医学部保健学科	4名
	函館市医師会看護専門学校	40名
	函館厚生院看護専門学校	39名

